

緑の地球

GREEN

EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- コンサート『黄河の響き』のお知らせ P 2
- 夏の黄土高原ワーキングツアー P 4
- 二風谷のさわやかな風に吹かれて P 7



大同市に隣接する応県に残る木塔。約千年の歴史をもつ中国最大の木造建築。

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る

etc.

あなたのご参加を待っています!

1999・9

69

中国黄土高原緑化支援コンサート

黄河の響き

みなさんのご協力を!

なにか活動を広げられるようなイベントをやりたいね、と言い続けて〇年、ようやくコンサート実現の運びとなりました。もちろん、このコンサートの収益は黄土高原の緑化資金に使わせていただきます。高見事務局長の講演で大同の現状をお聞きいただいた後、この活動に賛同する日本在住の中国人アーティスト“長城楽団”のみなさんによるコンサートになります。

中国の民族楽器、といえばなにを思いかがりますか？ 哀愁をおびた音色で日本でも広く親しまれている胡弓。日本のものとは異なり、多彩な奏法で変幻自在の琵琶。竹笛の澄んだ音色、そして少数民族の笛、フルスのふたつの音色には驚かされます。これらの楽器を奏てる3人の演奏家のステージをいろいろるのはあでやかな舞踊。ユニークなステージが期待されます。

会場収容人数は360人、はじめてのイベントにはちょうどいい規模かなといいながら、「入らなかつたらどうしよう…」と不安な事務局です。音響・

照明をはじめ、すべてが手づくりで、しかもはじめてですからいろいろと行き届かないこともあることでしょう。そんなところを、みなさんのお力でなんとかカバーしていただきて、ぜひ成功させたいと思っています。ご協力をよろしくお願いします。

①チケットの販売にご協力ください。

できれば、5枚、10枚単位であずかっていただき、お友達や同僚、周囲の方におすすめください。精算は売れた分だけで、コンサート終了後でもけっこうです。GEN事務所までご連絡ください、チケットを郵送いたします。

②宣伝にご協力ください。

人が集まりそうなところにチラシを置いてもらってください。GEN事務所までご連絡ください、必要枚数をお送りします。また、パソコン上で個人のホームページや掲示板などを利用していただきてもけっこうです。GENのホームページにリンクしていただきてもかまいません。

③当日のお手伝いをお願いします。

音響・照明の経験があり、手伝ってもいいよという方は、大至急GEN事務所までご連絡ください。

受け付け・物品販売等のボランティアにはすでに20数名が名乗り出ています。

『中国黄土高原緑化支援コンサート・黄河の響き』

●日時：10月16日（土）開場午後1時30分

●第1部：講演『中国黄土高原の緑化協力』（高見邦雄・GEN事務局長）午後2時～2時30分

●第2部：コンサート『黄河の響き』（長城楽団・邱迅、朱啓高、葉衛陽、朱園園）午後3時～4時30分

●場所：富田林公会堂（富田林市常磐町16番11号・近鉄長野線「富田林西口」駅徒歩5分〔富田林西口駅には、あべの橋より約30分〕）

●入場券：2,000円（前売り1,700円）

●主催・前売り・問合せ：GEN事務所、または日中経済文化センター（TEL. 0721-20-2430、FAX 0721-26-0770、e-mail: office@jcecc.co.jp）

●後援：富田林市／富田林市教育委員会／大阪府国際交流財団／中華人民共和国駐大阪総領事館

年賀状にどうぞ！

橋本紘二さんの絵ハガキ 新作完成

「春と夏だけですか？」……とのご質問が多かった橋本紘二さんの絵ハガキ第2弾を、ようやく制作いたしました。「秋・冬」編と「緑化協力」編の2種類で、それぞれ8枚で1セットです。たくさんの作品のなかから「どれがいいかなあ」と悩んだ末に選んだ自信作揃い。年賀状に、ぜひご利用ください。また、「春」編、「夏」編の在庫もあります。こちらは郵便番号枠が5ヶタのため、ちょっとお買い得になっています。あわせてご利用ください。

★絵ハガキ “中国・黄土高原の四季”

○「秋・冬」（カラー8枚）……600円

○「緑化協力」（カラー8枚）……600円

○「春」「夏」は、同じくカラー8枚組でそれぞれ500円です。

なお、送料は1組の場合90円、2組の場合は160円です。それ以上の場合はお問い合わせください。お申し込みはGEN事務所まで。

GREENなんでも勉強会 多様性のある森づくり 黄土高原の植物園のための 種子あつめ

多様性のある森づくりをめざして、GENの緑化協力地、大同市の南端に位置する靈丘県で自然植物園の建設がはじまりました。日本からも、北海道や東北で寒冷・乾燥地でも育ちそうな植物の種子を集めて大同に運び、地球環境林センターと靈丘自然植物園で100種類近くが今年発芽しています。

GREENなんでも勉強会“多様性のある森づくり”最終回は、来春大同で多くの種子あつめを、比良山でおこないます。どんな種があつまるでしょう。

●日時：10月3日（日）9時40分～15時頃

●場所：滋賀県比良山

●集合：JR湖西線「比良」駅に9時40分

●費用：一般=700円、小学生以下=200円（保険料を含む。交通費は含まない）

●定員：30名

●講師：立花吉茂さん（GEN代表、花園大学教授）

●申込み：GEN事務所まで

●締切り：9月29日





大同近況

～厳しい旱魃のなかで

8月末から、また大同に行ってきました。旱魃の害の恐ろしさをこれほど痛感したのは初めてのことです。

昨年8月から1年間の大同市の平均降水量は130mmほどです。平均が400mmほどですから、およそ3分の1ということになります。

膝にも達しないトウモロコシが穂をだしているのは、悲しい光景です。平年なら2mにもなり、直径40cm以上の花を咲かせるヒマワリが、1mたらずで小さな花を咲かせています。20cmに達しないジャガイモが花を咲かせています。アワやキビは枯れたものが多く、穂を摘んでみても、実はまったくはありません。

大同市の耕地の57%にあたる20万haで、収穫はゼロだと、大同市政府が発表しました。

水不足も深刻化しているようです。大同市の地下水は毎年2~3mずつ低下しており、200年には完全に涸渇するとの地元の新聞が報道しましたが、飲み

水に困る人びとが30万人もいるのだそうです。

この先、いったいどうなるのでしょうか？

そのような厳しい環境のなかで、ことしの春植えたものの活着率は、近年のなかではよくありません。それでも大同県のマツなどは80%はキープしています。イナゴやバッタも大発生し、ノネズミ、ノウサギの害もでています。旱魃の年ほど、動物の害が深刻化するようですので、今年の冬は要注意です。

自然植物園を建設中の靈丘県南庄村の小学校が完成しました。全ジャスコ労働組合が、創立30周年記念事業として贈ったもので、組合派遣のツアーの人たちといっしょに、9月4日に開校式がもたれました。一通りの式のあと、子どもたちといっしょに遊びました。こういうときの組合員の人たちの積極さにはいつも感心させられます。一帯は日中戦争にさいして、ひどい被害を受けたところですが、私たちをが遊ん

した。

遠山正瑛さん、菊池豊さん、宮脇昭さん、遠山恆雄さん、大國昌彦さんなどの報告がつづきました。コメントーターの吉川賢さんが最後に提出された「砂漠化防止と砂漠緑化は異なる。いま重視すべきは砂漠化防止ではないか」という視点は、このような運動が発展するにつれて、重要なになってくるものと思います。

中国の植林に「小渕基金」

小渕首相が訪中するに先立って、7月5日、NGO代表と首相との懇談会が開催され、緑の地球ネットワークからは高見事務局長が出席しました。中国の植林に協力するNGOや地方自治体などを支援するために、100億円規模の「小渕基金」を新設するというが、小渕首相の意向でした。基本的な趣旨は歓迎すべきことですが、長期にわたる植林事業が両国民の信頼と支持をえ

ているようすを、そばに座り込んでずっとみていた1人の老人が、「いいことだ、いいことだ」と繰り返しながら、握手を求めてこられたのはうれしいことでした。

植物園は、ことしの春から、放牧の家畜の進入を止めてもらいました。すると、たくさんの種類の草が生えてきて、下のほうの池のあたりは、腰から肩の高さの草が生えてきます。知らない人がみれば、荒れ果てた光景かもしれませんのが、草や灌木をこうやって自然のままに伸ばすなかで、どこになにを植えていけばいいか、その見当もついてきます。

センターと植物園と二手に分けておこなっていた導入植物の育苗は、まずまずといったところです。ひじょうによく育ったものもありますが、小さな種のものはほとんど失敗しました。これから技術水準を上げていく必要があります。

(高見)

て発展するよう、明朗かつ効果的な運営が望されます。

訪日団がやってきます

10月末から2週間技術研修

99年10月末から11月にかけて、およそ2週間、カウンターパートの技術者たちを日本に呼び、技術研修をおこなうことになっています。いまのところ、大同事務所から武春珍所長、王萍さん（通訳）、楊元勝さん（技術員）、地球環境林センターの郭有權さん（技術員）、靈丘支所の李向東さん（技術員）の5人の予定で、関西を中心に植物園や森林をみてまわり、立花吉茂代表をはじめとする専門家がつきっきりで案内することになっています。

会員その他の方たちとの交流の機会もつくります。日程その他についてはお問い合わせをお願いします。



夏のワーキングツアー日誌より

心の溝を埋めてゆけたら……

地元住民の理解・参加を！

7月29日から8月5日までのGENの黄土高原ワーキングツアーには、大学生から73歳まで31人が参加しました。ツアーのようすを日誌から抜粋してご紹介します。

【7月30日（金）】

●一昨年の春、窓から見える風景に「黄土高原とはよく名付けたもの」とタメ息をついた人がいたが、今回目にしたのは緑色の大地だった。黄色く見えるのはヒマワリ、やっぱりちがうんだ～、とあたり前にちよつと驚いた。あの春から思い続けた、黄土高原の夏を見る事ができるとはと感動しつつ、大同駅に到着。高見さんの笑顔にお会いできて、本当にうれしい。「一緒に夏の黄土高原へ行こう！」と約束しつつ、参加できなかった仲間たちに自慢しなければ!! 遠田先生の優しい笑顔にも無事、再会。(佐々木陽子・会社員)

【7月31日（土）】

●どのような現地指導をおこなっているのかということは前から興味を持っていたことでもあり、それを身近で見学することができてとても貴重な体験をした。植物園を作るにも、まず放牧されている家畜を植物園の敷地からシャットアウトすることから始まる。植えた苗も家畜に食べられてしまうと元も子もないからであり、家畜をシャットアウトした状態での自然条件を作り出し、そこで植物を植え、どんなものがよく育つか、どのような方法がbestなのかなどをじっくり試行錯誤する。100年計画で緑化をおこなうならじっ

くりした研究、実験が必要であろう。

立花先生は「ここはよく風が吹くから、風力発電ができるものを作つて電気を通したい」と言っておられ、植物園のスケールの大きさを感じることができた。(森田寛・大学生)

●小学校を訪れた。新築されたばかりの小学校とそれまで使つていた学校とふたつを見たが、全く違つていた。昔の学校は、村の家と同じような土壁だった。障子紙がやぶれているのを見つめたときは、子どもはどこも障子やぶりが好きなんだなとうれしくなった(通気性をよくするために、わざとやぶったのかも!?)。新しい学校には、(日本の友達ありがとう) (打倒日本帝国主義)の言葉がかかれていらしかった。考えさせられる言葉だ。(松岡裕子・大学生)

【8月1日（日）】

●村から歩いて30分くらいの山で植樹をおこなった。春に植えた小さな松に氣をつけながら、ゆるやかな斜面に30cmくらいの穴を掘り、松の苗を置き、ふんわりとした黒土をかけて、水をそそぎ、おさえるために雑草や石、土をもう一度かける。この土は、黄土高原の中でも特に良質な、木々の生えやすい所らしいが、春に植樹したナラ(?)の苗が数本、雨に流されて枯れていて、とても残念。

南庄村農家の昼食。辺りは、どうもろこし、キャベツ、じゃがいもの畑が広がっていて、その中に130名ほどの村民(ほとんどが老人と子ども)が自給自足の生活をしている。(中略) 私たち6名は元気のいいおばさんに連れられていき、彼女の家のオンドルの上で昼食をごちそうになった。ザーサイ、トマト、キュウリ、豚肉のスープや卵焼き、きびで

作ったおまんじゅう。1年のうちで最高の料理よ、と言ひながらスープをよそってくれた。この村は、主食はじゃがいもやきびで、とれる野菜の種類も限られていて、温飽の問題は解決できているが、それ以上のものはない。とっても単調な食生活、しかもその年の天候に左右される生活を50年間、変わらず続けているらしい。

中国の改革開放政策は“豊かになる者から豊かになれば良い”。そうすれば経済が活発になり、上から下へお金が流れしていく。そしていずれ貧しい地区の生活も豊かになる…あるが、その考え方方に矛盾を感じる。この村では、日本軍の虐殺があり、しっかりと語りつがれている。そのような村人の心と、私たち日本人の心の間の溝を、GENの地道な活動、お手伝いや人びとの交流を通して少しずつ埋めてゆけたらいいのにな、と願いながら、大同市郊外の地球環境林センターへ向かう。(大島弘子・大学院生)

●日本にいたとき、GENの機関誌などを通して、井戸や果樹園が完成または実がなり、中国人に感謝された、というようなものをたくさんよませてもらつたが、こと植物園に限つていうと、付近の農民5人ほどに直接尋ねたが、彼らのうち1人として山に植物園があること、ぼくたちを含め、これまでにたくさん来た日本人がいったい何をしに来ているのかはっきりとは分かっていなかった。技術者や幹部だけでなく、地元住民の理解、参加があればもっと理想だし、またODAでないNGOはそうあるべきだと思った。

(中略) そして、今日一番心に残つたこと。聚楽堡の書記などが準備し、接待してくれた昼食。「日本人は食事しながらカラオケするのはきらい?」「こんな習慣はないの?」「おいしくないから少ししか食べないの?」こんな風にきかれた。僕はこう思う。文化や習慣が違うのは当たり前。でも、あまりにも自分たちの文化、日本人の視点から考えたりしすぎではないか? それは失礼だし、相手に失礼である。中国にもこういうことわざがある、“入郷随俗”(郷に入れば郷に従え)と。



靈丘自然植物園で植物標本をつくる



大同県采涼山でマツを植える

(西田幸信・留学生)

●中国ではなにがおきても不思議ではないし、予定どおりにはなかなかいかないことは充分承知しているが、出発して1時間ほどで運転手さんの体調が悪くなり、バスはストップしてしまった。昨年の春は同じコースで雪が降ってバスがストップし、大同に帰ったのは夜中の2時頃というアクシデントがあったが、運転手さんのアクシデントは初めてである。医院では注射と点滴で3時間後には回復とのことであったが、まさかそこから運転再開などという危険はさけて、代車の手配となつた。

かくして来たバスは2段ベッドの長距離バス、靈丘→石家莊の大型バスであった。私もはじめての経験、乗りたくてものれるようなバスではなく、興味のあることこの上なし。各段ごと2人並列、1人分は45×180cm、中の通路(45cm巾)をはさんで左右に並ぶ2段ベッドはなかなか快適で、3~4人の満杯の状態でもイビキをかいだりねる人もいて、悪くはないとの印象でした。

応県の木塔。950年前の木造建築として中国の文化遺産として指定されて

いるものであるが、ただ驚くばかりの設計と施工技術である。日本の五重塔とは全く異なる建築設計であり、各階ごとの積み重ね方式の印象を持ったが、それは素人の感想。使用された材はカラマツとの説明であったが、太い柱に残るフシ(枝のあと)から見て幹の年間伸長量は50~70cm

のきわめて良好な生長をしていたカラマツが、1,000年前にはこの地方に大量にあったことが推定された。この木塔は各階ごとに方向をかえて傾いていて、その保存が検討されたことがあるが、現段階では修復は難しいと聞いている。解体して組み直しのことも検討されたそうだが、現代では材料の入手は不可能に近いとのことである。(遠田宏・GEN顧問)

【8月2日(月)】

●采涼山の試験地では、土地の書記以下多数の人が、赤い旗を何本も立てて迎えてくれた。代表者からのあいさつの後、現地の人と共に、今春植栽したマツの補植をおこなう。春の植栽苗のかなりが枯死していた。皆が補植している間、枯死した苗、健全に育った苗をたんねんに見て歩く。道をはさんだ向かい側には、同じ時に現地の人が植栽した場所があり、ここでは苗の活着率が良い。活着率の良否の原因を知る手がかりでも得られないかと思ったが、見当がつかなかった。活着率の良い場所は、多少草つきも良いのかな? 巣植え状態の苗の方が多少活着率が良

いのかな? などとも思えるふしもあるが、それほど差があるとも思えない。手がかりを得られないまま作業を終える。(小川房人・GEN顧問)

【8月3日(火)】

●7:10、同室の宮脇さんに起こされて目が覚めた。今日はとてもすっきりしている。昨日はお腹をこわして体調が悪かった。でも、その代わり中国の医療を体験することができ、よかった。中国の病院では診療室がやけに開放的で、診てもらっている人以外の人が出入りしていたので驚いた。病院でもらった薬はとてもよく効いて今日はすっかり元気。

8:45ごろホテルを出発して雲崗の石窟へ。私の目的のひとつだったので、とても楽しみにしていたが、鎌倉の大仏ぐらいの大きさの像が何体もあり、感動した。窟の中はすき間なく釈迦の物語が刻まれ、その造営を考えるとただ単にすごいと思う。

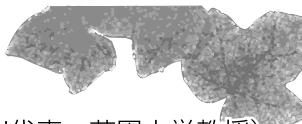
その後、少しの間バスに乗り万人坑へ。日本が中国や韓国、朝鮮などで虐殺をおこなったことは知っていたが、万人坑のことは一度も聞いたことがなかった。薄暗い建物の中に入り、皆が何かを懐中電灯で照らして見ているので私ものぞいてみるとそこには何体もの人骨が転がっていた。生で人骨を見たのはこれが初めてだと思う。しかし、それよりも陳列館の中にある掛軸のようなものにかかれた日本帝国という文字をみたときにはすごくドキッとした。日本に対する恨みの念をひしひしと感じたからだ。バスの中で高見さんの話を聞いていて、日本がしなければならない謝罪とはどういうものなんだろうと思った。申し訳なかったといいくらいっても無駄な気がして、一番いいと思えるのは彼らの気持ちがおさまるまで恨みであろうとあろうと聞いて受けとめるようにすることなのかなあと考えたりしていた。(笹本里奈・大学生)



かわいい踊りを披露してくれた大同県聚樂郷の子どもたち

植物を育てる (3)

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学教授)



●硬実性種子 (続き)

乾果・液果・殻斗果の種子のうち、硬実性を持つのは乾果だけであるが、その発芽促進処理法のひとつ、熱湯(温湯)処理については先報(68号)で述べた。今回はその続きの硫酸処理と傷付け処理について記す。

硫酸処理

硫酸は物を溶かす作用がある。硬い種皮の表面を溶かして吸水を促すことになる。同じように物質を溶かす作用のある各種薬品を使ったが、硫酸が抜群に良かった(図)。硫酸は処理時間が長すぎると種皮が溶けてしまって死んでしまう。だから、種類によって適当な処理時間がある。また、硫酸の濃度と処理するときの温度も影響する。硫酸の濃度は45%以下は効果がなかったから、もっぱら98%の濃硫酸を使っている。硫酸は薄めるのが簡単ではないからである。処理方法は、ガラス容器に種子を入れ、硫酸を注ぎ、一定時間後(多くは2分~30分)、硫酸を大量の水に流して捨て、急激に水で洗う。

ゆっくりしていると発熱するからである。2~3度洗ってから飽和した重曹水で中和する。さらに2~3度水洗してから発芽床に蒔く。

初めての植物で、処理が必要かどうかがわからないときは、種子の一部を水に一昼夜浸して膨大するかどうかを確かめる。判定が困難なときは種子2~3粒をヤスリか刃物で傷を付けて浸

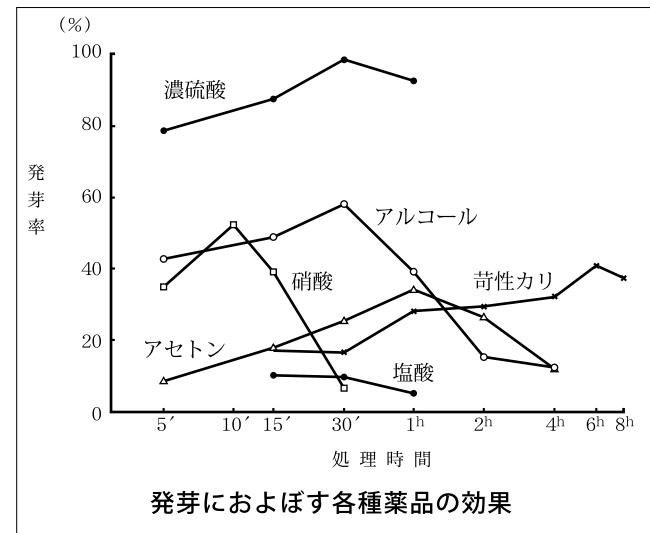
水しておくと膨大するから、比較すれば良い。膨大すれば吸水しているのであるから蒔けば発芽させることができる。

傷付け処理

少量ならヤスリで傷を付けることもできるが、種子が小さいか、大量に処理するには砂と一緒にして、石臼などでつくりと種皮に傷が付いて吸水をさせることができ

できる。つく時間などは種類によって異なるが、一部を水に浸して膨大するかどうか見ればよい。この方法は昔から、水田に蒔くレンゲソウの種子に応用されていた。ご承知のようにレンゲソウはまだ栽培植物に変身しておらず、種子発芽の特性は野生のままだからである。

長命で知られるハスの種子は、そのままで吸水しないから、一粒ずつヤスリで、中身が見えるまで深い傷をつけると吸水してすぐに発芽する。ハスの種子は大きいからやりやすいのである。



地球温暖化対策クリーン開発メカニズム事業調査 採用決定

財団法人地球環境センターが募集した地球温暖化対策クリーン開発メカニズム事業調査、「中国黄土高原における緑化の可能性調査」で応募したところ、採用が決まりました。これは、温室効果ガスの排出削減や吸収源強化につながるプロジェクトの可能性をさぐる調査で、環境庁の温暖化対策クリーン開発メカニズム事業調査の一環としておこなわれるものです。

調査内容は、小葉楊(小老樹)をはじめとする從来使われてきた緑化樹種の特徴や植栽方法、生育状態の調査や、大同市南部でみつかった落葉広葉樹の自然林の植生調査、大同市の気象データの分析、農民の緑化に対する意識調

査などです。

GENはこの7年半、大同で緑化協力を実施してきたなかで貴重な現場経験やデータを蓄積してきました。その上に、新しく目的意識をもった調査で得られる結果を加え、中国はもとより、国際的な緑化協力をおこなう人たちの参考になるものをまとめたいと考えています。

助成が決まりました

●緑の募金交付金

中国黄土高原における緑化協力に対して、2,900,000円の助成が決まりました。また、「緑の募金」事業を広く知ってもらおうと、ジャパンFMネット

ワークが9月の全ジャスコ労組のツアーリーに同行取材した番組「THINK GREEN '99秋~中国・黄土高原体験リポート~」が、10月3日20時~20時55分(沖縄は10月3日21時~21時55分、愛媛は10月9日20時~20時55分)にFMラジオで放送予定です。

もくもくグリーンギフト ご利用ありがとうございました

もくもくグリーンギフトの受け付けは、とりあえず終了させていただきました。ご利用いただいたみなさま、どうもありがとうございました。システムを再度検討して、またおこないたいと思います。再開の際は、会報の紙面でお知らせいたします。

ナショナルトラスト・チコロナイ チコロナイ友の会

現状報告

独立して再出発、順調なすばりだし

◆新組織の会員登録の状況

(8月30日現在)

『ナショナルトラスト・チコロナイ』
(二風谷現地の組織、理事長貝澤耕一、
年会費2,000円) 45人

『チコロナイ友の会』(大阪中心の支援
組織、代表世話人武田繁典、年会費
2,000円) 99人

「チコロナイ通信」が毎月送られる
のは、「チコロナイ友の会」の方です。
『ナショナルトラスト・チコロナイ』
は年に2回の報告だけです。またこちらは、「NPO法人」登録を予定してい

ますので、年に1回の総会をおこなう
予定です。どちらに入会されるか、お
まちがえにならないようお願いしま
す。もちろん両方にご入会くださって
もけっこうです。

◆第3期の寄付の状況

(98年12月10日～99年8月30日)

133件 (123人) 1,093,862円

新しいリーフレットができています。
知り合いの人や組織に配ってくださる
方に、まとめてお送りします。必要部
数をお知らせください。よろしくおね
がいいたします。

ご案内

第46回チコロナイ学習会

- 日時：9月25日（土）15時～17時
- 場所：GEN事務所 (TEL. 06-6583-1719)
- 内容：夏の「二風谷宿泊研修会」報
告の他、吉田淳一さんの「松浦武四
郎の足跡をたどる旅、知床」のお話
も聞ける予定です。
- 参加費：100円+カンパ
- 問合せ：チコロナイ友の会（武田）
- ★初めての人も、1回だけの飛び入り
も大歓迎です。

チコロナイアイヌ語講座 ～いやでもわかるアイヌ語～

第5期第3回

- 日時：9月25日（土）13時～15時
- 場所：GEN事務所
- 資料代：第4期（6回）分で2,000円
- 問い合わせ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)
- ★『エクスプレス・アイヌ語』（中川
裕、中本ムツ子著白
水社）の12のところ
をやります。1回だ
けの飛び入りも大歓
迎です。（400円）



【連絡先】

『ナショナルトラスト・チコロナイ』

〒055-0101北海道沙流郡平取町二
風谷31-3 貝澤耕一方 TEL. 01457-
2-2089 FAX. 01457-2-3991

■寄付金、年会費の送付先
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

『チコロナイ友の会』

〒546-0003大阪市東住吉区今川6-
2-6 武田繁典方 TEL./FAX. 06-
6704-7720 E-mail : vyn01123@
nifty.ne.jp

■年会費の送付先
上記武田まで、切手、定額小為
替または現金を郵送で。

チコロナイ友の会 現地宿泊研修会 報告

二風谷のさわやかな風に吹かれて！

1999年8月

第4回 二風谷子どもキャンプ

第6回 二風谷ワーキングツアー

子供キャンプは11日から15日まで、
4泊5日でおこないました。小学3年生
から、中学生、高校生、大学生、大人
まで、13人の参加でした。今年から、
1日増えたので余裕をもって、充分楽
しみました。

ワーキングツアーは、例年と同じく、
二風谷のチプサンケのお祭りをはさん
で、18日から23日までおこないました。
参加者14人でした。家族で参加した中
に、今までの最年少、1
歳ちょっとのかわいい赤
ちゃんもいて、赤ちゃん
なりに楽しんでいました。
今年は、春に植えたミ
ズナラの苗木のまわりの
下草刈りをして、皆さん
いい汗を流しました。

また幸運にも、二風谷
アイヌ語教室に重なって、
飛び入りで参加させて
いただきました。講師の神
崎雅好さんとアイヌのフ



1999年8月 二風谷子どもキャンプにて



NGOがひらく未来II

～いま、NGOが問われている～

NPO法の施行など、NPOやNGOを取り巻く状況は変化してきています。

●日時：10月2日（土）13時30分～18時

●場所：阪急グランドビル2階会議室
1・2・3（大阪市北区角田町8-47）

●参加費：1,000円

●主催・問合せ：関西NGO協議会
(TEL/FAX. 06-6377-5144)

●内容：基調対談「日本のNGOいまむかし」篠原勝弘さん（外務省民間援助支援室）、平田哲さん（関西NGO協議会）、トークセッション「NGOのこれから」早川光俊さん（CASA）など

地球温暖化問題公開入門セミナー

これだけは知っておきたい

温暖化の話

そういうえば、2年ほど前にCOP3って盛り上がったことがあったけど、あれからどうなったんだろう？ という方は一度参加してみませんか。

●第1回 「まず知ろう！ 地球の健康状態」

○日時：10月9日（土）18時～20時

○会場：ウィングス京都

○講師：前田佐和子さん（京都造形芸術大学教授）

●第2回 「これまでの世界、これから

の世界」

○日時：10月16日（土）18時～20時

○会場：コーポイン京都

○講師：浅岡美恵さん（気候ネットワーク代表）

●第3回 「やってる国はやっている！ 環境先進国の試み」

○日時：10月30日（土）18時～20時

○会場：コーポイン京都

○講師：和田武さん（立命館大学教授）

●第4回 「ワークショップ・考え方 エコライフ」

○日時：11月13日（土）18時～20時

○会場：コーポイン京都

○ermenテーター：鈴木靖文（ひので
やエコライフ研究所）

○司会進行：山口洋典（立命館大学大
学院）

●参加費：各回500円（4回連続受講
1,500円、会員・ボランティア無料）

●主催・問合せ：気候ネットワーク
(TEL. 075-254-1011, FAX. 075-254-
1012, e-mail : kikonet@jca.apc.org)

とどけ友情のしらべ

第4回就学支援コンサート

中国湖南省・寧夏回族自治区で就学支援活動をつづける関西日中交流懇談会が、恒例のコンサートを開きます。

●中国古箏：伍芳

●ピアノ伴奏：林秀茂

●日時：11月6日（土）午後1時30分
～3時30分（開場1時）

●会場：大阪府立青少年会館文化ホー
ル（JR環状線・地下鉄「森ノ宮」駅
下車）

●主催：関西日中交流懇談会（TEL.
0797-88-2240）

●協力券：2,500円（当日3,000円、小
中高生、障害者1,500円）

●前売り：関西日中交流懇談会、チケ
ットぴあ（TEL. 06-6363-9999）ア
ミリーマート各店端末ファミネット

本の紹介

『警告する自然－どうする人間 どうな る環境』

立花吉茂著・淡交社・1,700円（税別）

地球温暖化、環境ホルモン、黄土高
原の緑化、など広範なテーマをカバー
し、さらにところどころに挿入された
世界の植物に関するさまざまなエピソ
ードが楽しい立花先生の力作です。